

「鉛製給水管の布設替えに関する手引き」 改定検討会について



2026 年 1 月 30 日に今後の鉛製給水管の解消に向けた対応方針が公表され、鉛製給水管の解消に向けた 6 つの取組が示されました。今般、その内の 1 つである「鉛製給水管の布設替えに関する手引き」を改定する為の検討会が 2026 年 8 月 21 日に開催されました。

鉛製給水管は可とう性や柔軟性に富み、1980 年代後半まで全国で使用されてきましたが、鉛ばく露による健康影響や漏水、地震時の高い破損率が問題となり、布設替えが求められています。鉛管の残存件数は減少しているものの、2014 年度以降は解消ペースが鈍化し、2023 年度末でも約 192 万件が残存しています。特に中小規模事業者では布設替え計画の未策定が半数以上を占め、取り組みの遅れが課題となっている状況にあります。

国は 2028 年度までに「計画策定率 100%」「年間 15 万件の解消」を目標に掲げ、広報強化や計画策定指導、手引き改定などを進めています。今回の改定では、計画未策定事業者の実務支援と、公道部・宅地部を含めた具体的な布設替え事例の提示を目的とし、解消を加速するための実効的な指針整備を目指しています。

当社では水道水分析について豊富な実績と経験があります。詳しくは、当社水道水分析担当者（フリーダイヤル 0120-01-2590）までお気軽にお問い合わせください。

資料 [2026 年 8 月 21 日付 国土交通省 「鉛製給水管の布設替えに関する手引き」改定検討会](#)

